

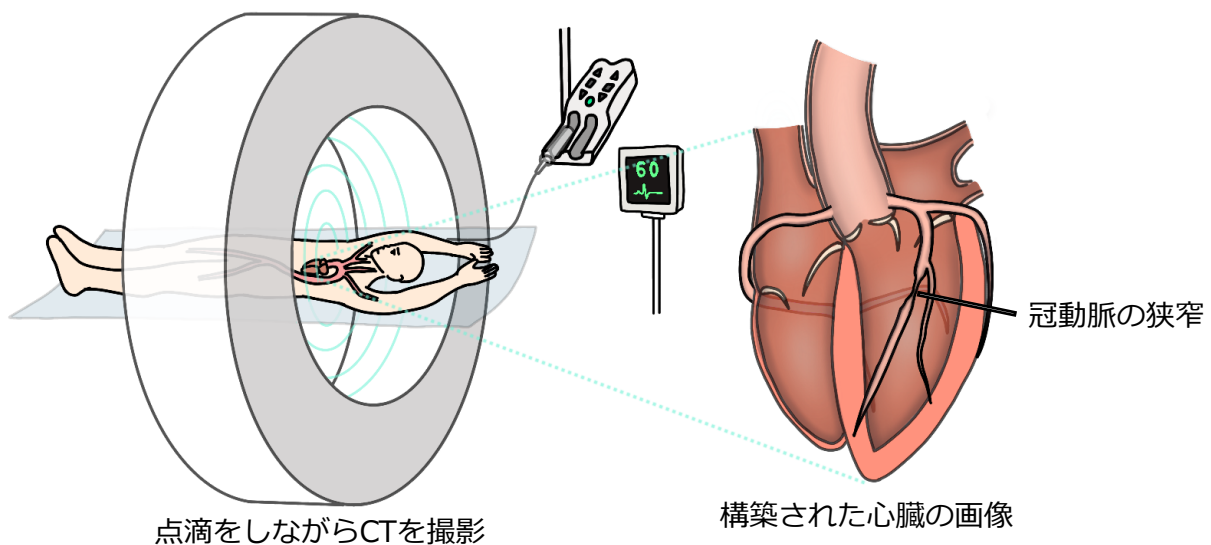
心臓CT (造影) 検査の説明・同意書

1. 心臓CT検査が必要な患者様とは？

➡胸が苦しい、痛い、ドキドキするなどの症状があり、心臓の精密検査が必要と判断される場合や、無症状であっても心電図の異常があったり、心臓病のリスクが高い方が心臓CT検査を受けていただく必要があります。心臓病には狭心症、心筋梗塞などの動脈硬化によって起こる病気や、不整脈、弁膜症などがあり、心臓CT検査では主に動脈硬化の様子や不整脈によって心臓の中で血液のドロドロ（血栓）が湧いていないかを診断することができます。

2. 心臓CT検査の概要

➡検査の2時間前から飲食を避けてください。1時間前に来院していただき、準備を致します。必要に応じて薬で心臓の脈を落ち着けたり、血管を拡張させます。点滴ルートを取り、造影剤を投与しながら心臓の写真を撮影します。血管内に造影剤を投与しながらCT撮影を行うことで、血管の描出が鮮明になり診断率が向上します。造影剤を投与している間、体全体が熱く感じられますが、正常な反応ですのでご安心下さい。CT撮影後、しばらく安静にさせていただいた後、点滴ルートを抜き検査終了となります。コンピューターで画像の構築をするため、結果を1~2週間後に聞きに来ていただきます。



3. 心臓CT (造影) 検査の合併症

➡造影剤使用に伴う合併症が起こる可能性があります。
命の危険があるような合併症は10000人に1.7人程度の低い確率です。

- 造影剤に関連した強いアレルギー反応（アナフィラキシー 例：皮疹、嘔気、呼吸困難）
- 造影剤による腎機能悪化（重症時は透析が必要）
- 造影剤の使用に伴う死亡（100000人に1人以下の確率）
- その他、想定し得ないような合併症

4. 糖尿病治療薬を内服の場合

➡糖尿病治療薬のうち、ビグアナイド系薬剤を内服されている場合、検査当日を含む、前後2日にわたってお薬を休薬する必要があります。乳酸アシドーシスという副作用が出現しないようにするためです。また、インスリン治療を受けている方は、検査前の食止めで低血糖を起こさないように、必要に応じて中止していただきます。

5. 腎臓の機能が低下している場合

➡腎臓の機能が高度に低下している場合、造影検査が出来ないことがあります。中等度の低下の場合、点滴しながらすれば、比較的安全に出来ます。

6. 心臓CT（造影）検査を受けられない場合

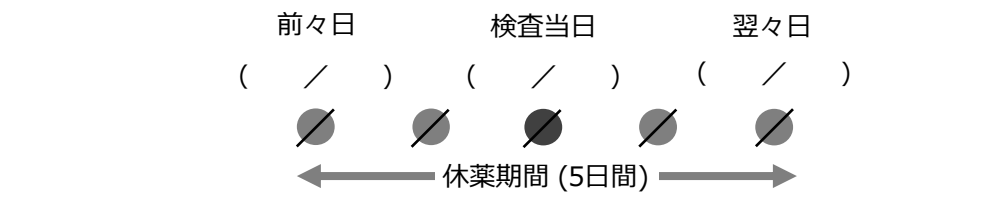
➡心臓CTは心臓病の診断に非常に有用な検査になりますが、それでも検査を受けられない場合は、診断や治療になるべく差し障りのないように、他の検査を用いて診療を行います。また、患者様が希望される場合は、他の医師や医療機関のご意見（セカンドオピニオン）を聞いていただきます。

7. 検査前の確認事項

➡安全な造影CT検査を受けていただくために、以下の事項について確認いたします。

アレルギーの有無	有	・	無	・	不明
造影剤使用歴	有	・	無	・	不明
ビグアナイド系薬剤	有	・	無	・	不明

➡ 有 の場合



令和 年 月 日

AOI国際病院 循環器内科 説明医師名

以上の内容を理解しましたので、その実施を承諾します。

患者名

同席者名（代筆者）

（続柄）